

第 67 回東葛しぜん研修会

奇跡のはらっぱ 周辺を歩く

三嶋秀恒（松戸市）

日 時：2013 年 10 月 3 日（木）9 時 30 分～14 時 天気：晴

場 所：印西牧の原のそうふけっぱら<草深原>（印西市）

参加者：会員 15 名、協議会 3 名、会員外 1 名、計 19 名

亀成川を愛する会：小山氏、逆井氏、中條氏

印西牧の原駅の北側にある奇跡のはらっぱ周辺を「亀成川を愛する会」の小山さん・逆井さん・中條さん・市川さんの案内で自然観察をしました。ここは、自然豊かな里山で、湿地が広がっていて、草原や湿地、樹林などで生態系が保たれるようになっており、絶滅危惧種に指定するトンボや草花など 109 種のほか、ホンドギツネ、ノウサギなど 830 種以上の動植物の生息が確認されているとのことでした。

「千葉ニュータウン 21 住区」開発用地内に残る「そうふけっぱら（草深原）」とよばれる約 50ha の草原は、開発計画が約 40 年間中断されてきたことで、生き物のサンクチャリ（聖域）が奇跡的に残されてきた全国的にも貴重な自然環境です。この貴重な自然環境の保全とその自然環境を街の魅力・財産として活かした街づくりが進められるよう、地元市民団体「亀成川を愛する会」が中心となって署名運動が開始され、6 月には東葛しぜん観察会のメンバーが署名協力をしました。9 月 25 日には「奇跡の原っぱを後世に」の署名を 1 万 400 人余り集めて、千葉県及び千葉県企業庁に提出したことですが、造成工事は急ピッチで進められています。

亀成川上流部から谷津林縁を観察しながら進み、原っぱ周辺を歩き、地蔵寺の集会場で昼食後、パソコン映像で活動の紹介をしていただきました。

ここは亀成川の源流部にあたるところで、生き物いっぱいの川を取り戻すためにモニタリング調査を行い、土壌の設置とマコモの植栽、側溝に落ちた小動物を救出するカエル救出作戦、生き物救出作戦、ホタルの里クリーン作戦などの活動を行っている解説でした。観察会ではウラギンシジミ・オオアオイトンボなどがみられ、クモやカマキリが多い自然豊かな環境で、ナンバンギセルも観られて、よい環境を残したいとの感想でした。

参加者の感想：1) 2012 年 4 月に谷田（白井市）の原っぱで「フィールド研修」、2011 年 9 月に草深の森～結縁寺で「里山と田んぼ」の研修会で訪れた地域です。夏にはクズやカナムグラが覆い被さっていても、草刈りによってオミナエシ・ワレモコウ・タチフウロが一緒にみられる素晴らしい所もあるとのこと、残したいフィールドですね。 2) 道端に普通にワレモコウやオミナエシ、ナンバンギセルが咲いている草っぱらの環境…残すことがいかに難しいことなのか、無くしてしまうことがいかにたやすいことか、重機の動く茶色の台地を見て実感しました。造られる住宅が必要とされているならまだしも、人口減少に向かう今、40 年前の計画をしゃにむに実行することの愚かさは明白だとおもうのですが…。

主に見られた植物：

コシオガマ、カラスノゴマ、ノハラアザミ、ツリガネニンジン、アキカラマツ、スズメウリ、クワクサ、アキノウナギツカミ、ヌスピトハギ、ミズヒキ、タカサブロウ、ヒレタゴボウ、コブナグサ、チヂミザサ、アキノノゲシ、ガマ、ヒメジソ、ヤマハッカ、ワレモコウ、フタバハギ、ナンバンギセル、カントウヨメナ、ゲンノショウコ、ヤブマメ、オニドコロ、ツユクサ



捕虫網でウラギンシジミをゲット